

国内外規格・認証制度研究会 の活動

2011年4月13日

特定非営利活動法人 事業継続推進機構(BCAO)
国内外規格・認証制度研究会

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

研究会メンバー

座長: 石川芳朗

副座長: 折笠秀明・高橋哲朗

メンバー: ・大月弘行 ・三島和子 ・増田幸宏 ・田代 邦幸
・日下 太一 ・加藤 康広 ・荒野てつ也 ・石井洋之
・加藤洋子 ・永木良明 ・福田 丈雄 ・大塚 政人
・森 徳行 ・中原 敏勝 ・仁内 英男 ・吉田 正
・大野 晃

(20名、2010年11月05日現在、順不同、敬称略)

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

国内外の規格、認証制度関連の鳥瞰イメージ図

BCP関連規格

- 諸外国規格・ガイド
- 国内規格・ガイド
- BS25999-1
BS25999-2
- ISO/PAS 22399
- ISO22301
- ISO22399
- ISO22320 指揮命令
- ISO22398 訓練・テスト
- ASIS SPC.1

RM関連規格

- ISO Guide 73
- ISO31000

マネジメントツール

- ERM
- RM
- J-SOX
- BCP/M

国際規格開発機関

- ISO/TC223

推進機関

- DRII
- BCI
- BCAO

推進機関ガイド

- プロフェッショナル 10項目
- BCI-GPG
- 標準テキスト 主任テキスト

国内外規格・
認証制度研究会

貢献

企業・政府
・自治体

- レジリエンシーの改善
- レジリエンシー評価基準

第三者監査・認証

- 認定機関
- 認証機関
- ユーザー組織
- コンサル機関

第二者監査・認証

- サプライヤー
- 自組織
- 顧客
- コンサル機関

- ディストラクション
- 継続的改善 MS-PDCA
- 外部認証
- サプライチェーン

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

当研究会の目的・目標

研究会の目的:

ディスラプションの調査・研究、サプライチェーンの調査・研究などを通し、利用組織にとって、レジリエンシーが向上し、役に立つ事業継続規格・ガイドラインのあり方を提案する。

2010年度の目標:

- (1) 規格・ガイドとディスラプション及びサプライチェーンの関係を調査・研究し、レジリエンシー向上に効果的な要素を抽出する
- (2) 代表的な規格・ガイドの内容趣旨を徹底的に、より深く理解し、規格・ガイドに関する専門性を高める
- (3) BCAO内外組織と情報交流により、規格・ガイドに関する専門性を高める

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

◆規格のレジリエンシー項目の抽出例

・規格フレームワークの実行力

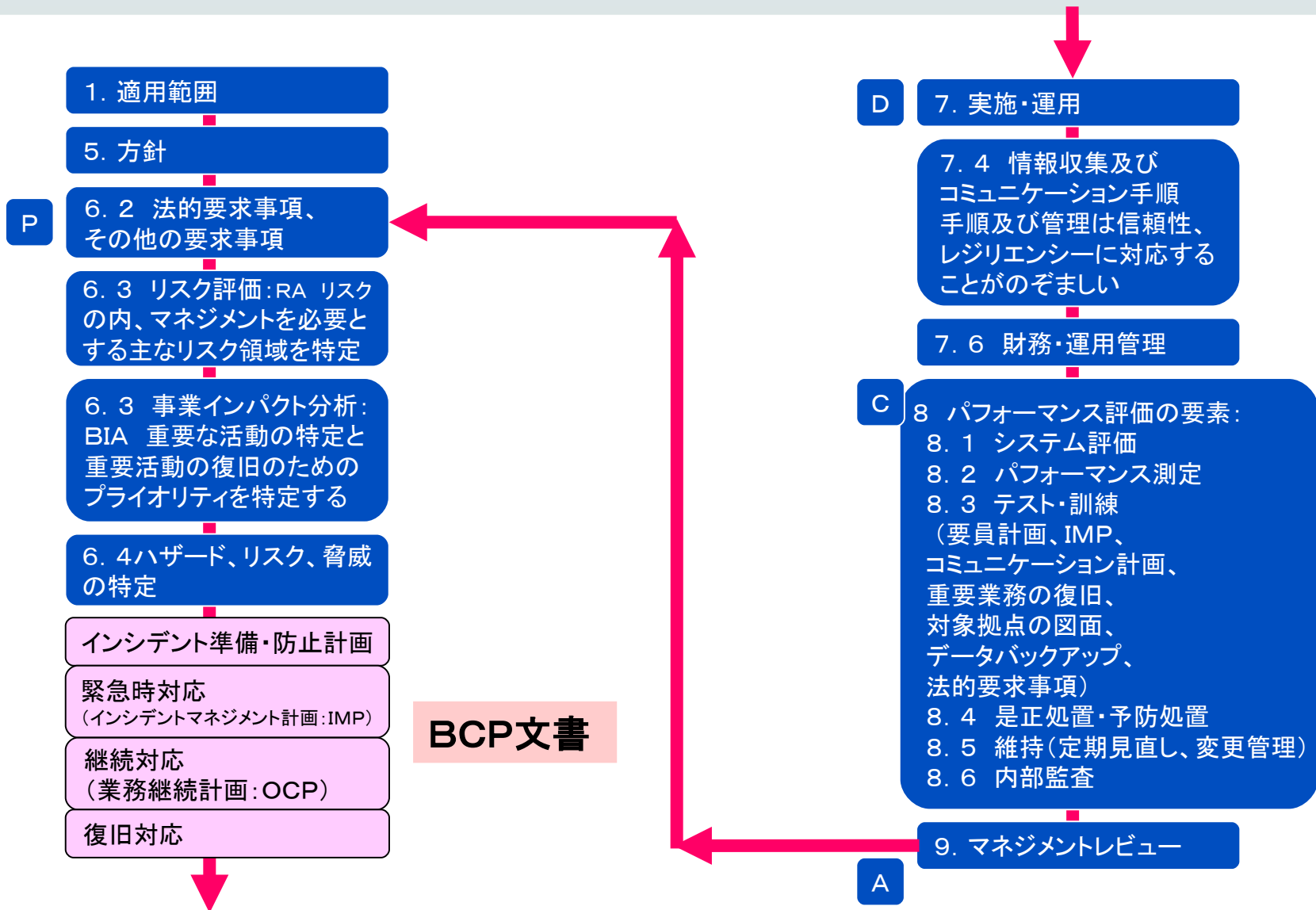
⇒ マネジメントシステム成熟度

・内容の深さ（身に付き度、日常の活用度、多様性、対応力、復旧力）

⇒ レジリエンシー成熟度

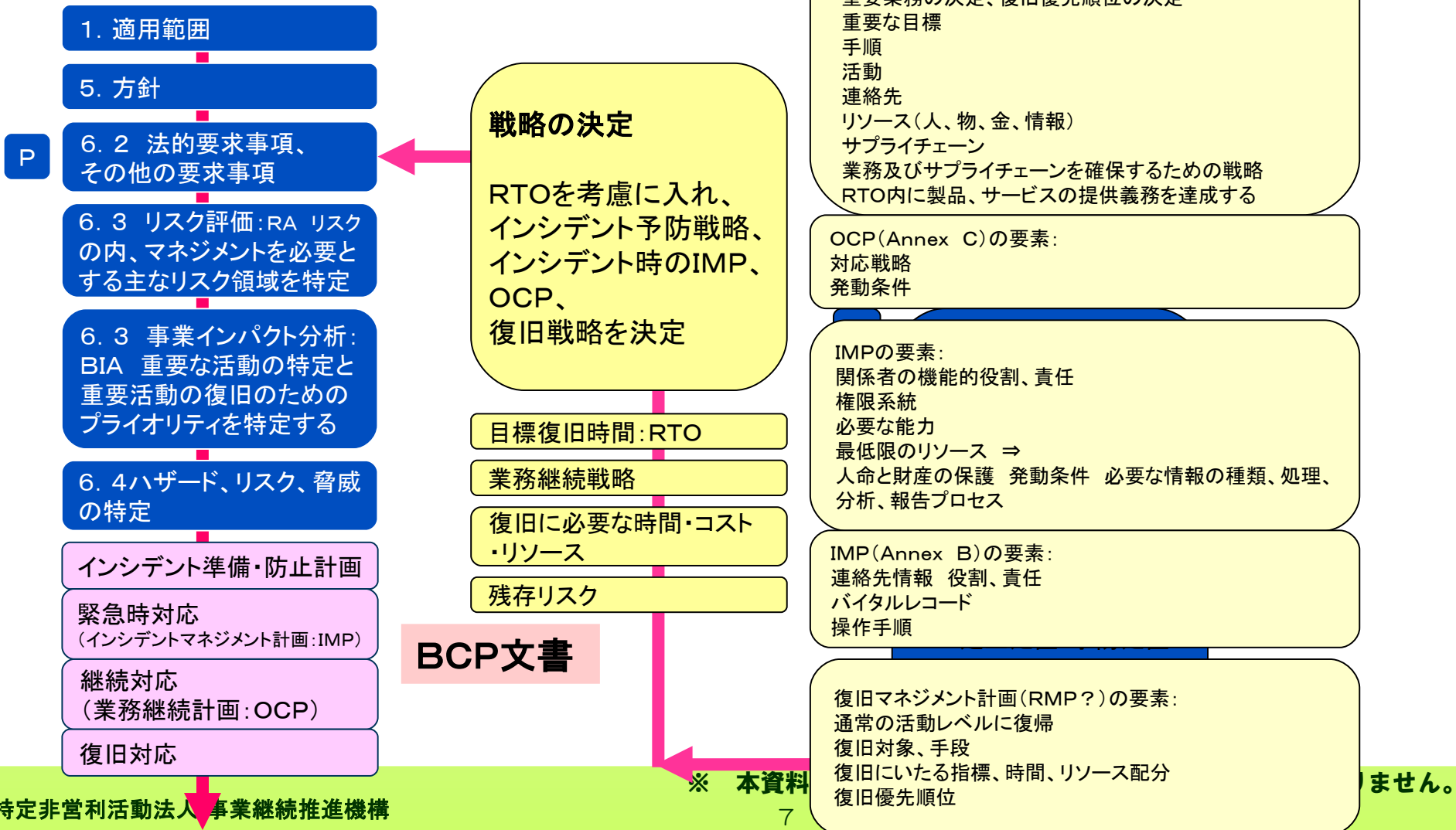
※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

ISO/PAS 22399のフレームイメージ

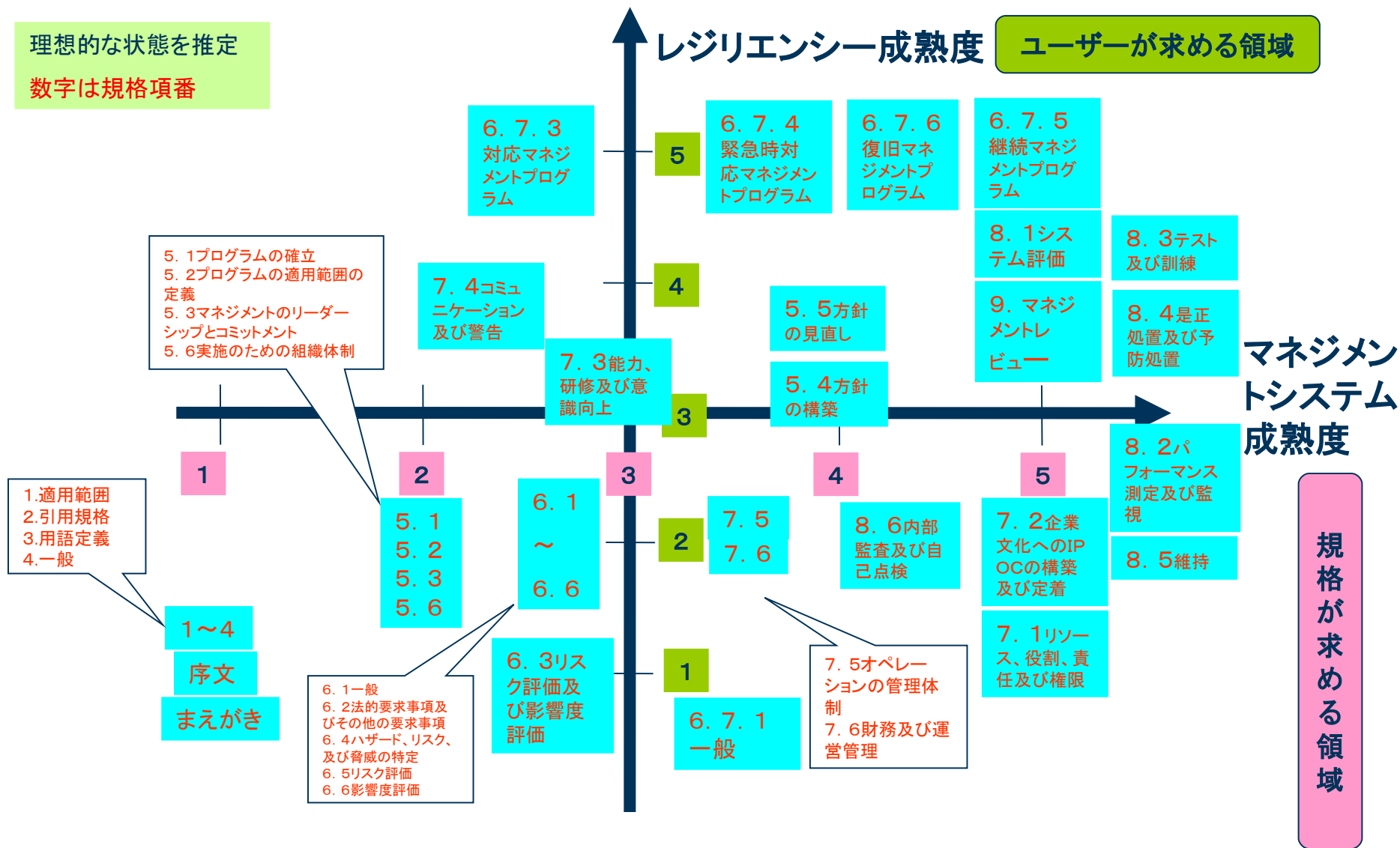


※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

ISO/PAS 22399 戦略の決定

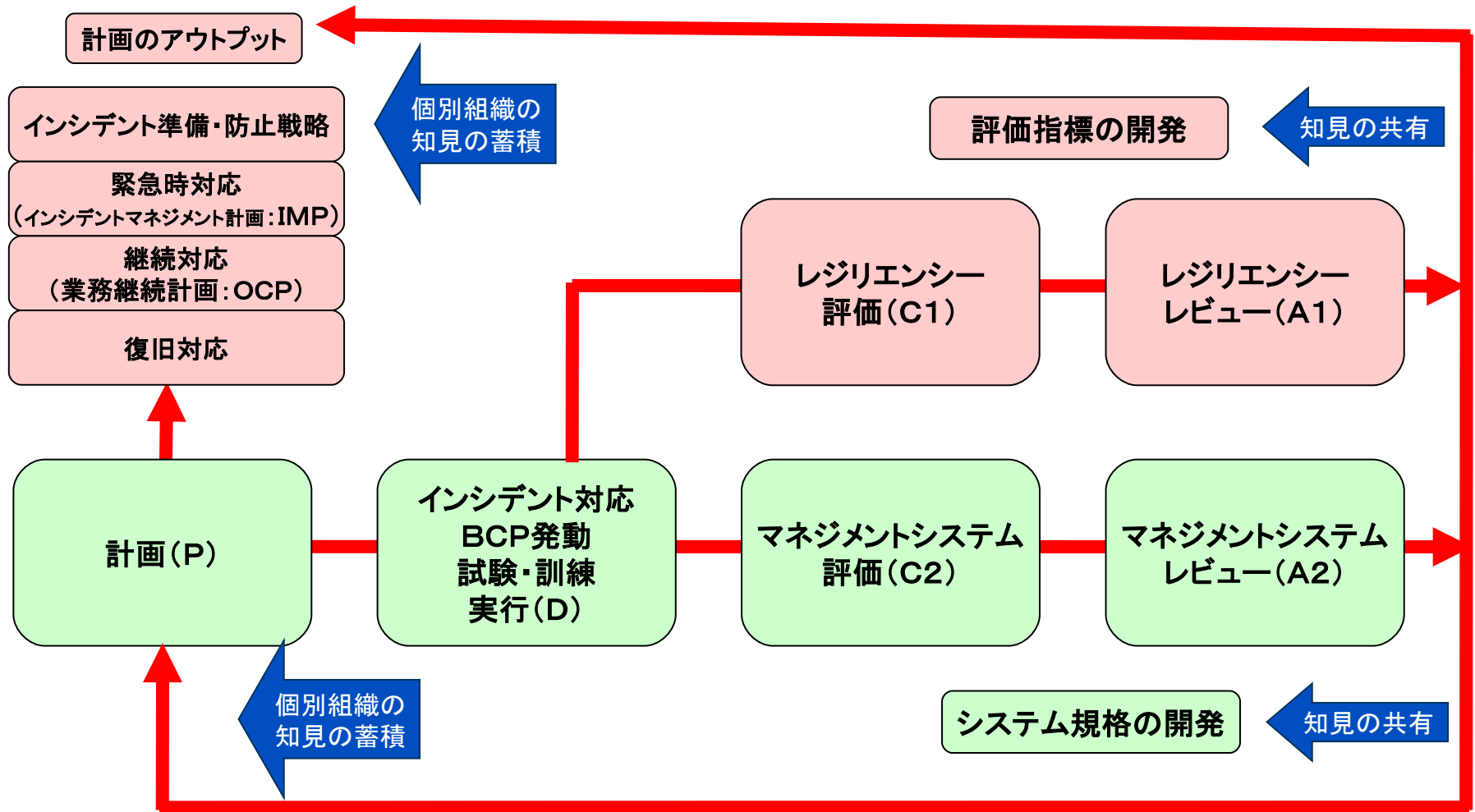


理想組織の成熟度のイメージ（例）



※ 本資料の文責は研究会にあり、BCA0全体の見解ではありません。

マネジメントシステムとレジリエンシー



※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

事例研究の資料集（例）

地震、風水害、火災、テロ、その他

（１）阪神・淡路大震災と家族 面接調査による事例研究報告書

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/directory/eqb/book/6-21/index.html>

（２）阪神・淡路大震災教訓情報資料集

http://www.bousai.go.jp/1info/kyoukun/hanshin_awaji/outline/index.html

（３）近年の風水害等事例と河川の防災対策について

http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/kasen/iinkai/pdf/s08_02.pdf

（４）風水害対策のポイント

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2009/08/04/1281817_10.pdf

（５）サプライチェーンの優劣が企業の市場シェアを左右する

<http://www.ciojp.com/contents/?id=00005656;t=0>

（６）業界トップメーカーの連続火災にみる 内部統制とリスクマネジメント

http://www.ginsen-risk.com/narage/pdf_file/2003.pdf

（７）原子力発電所に忍び寄るテロ脅威

http://www.tokiorisk.co.jp/risk_info/up_file/200712285.pdf

7月度宿題：ディスラプション事例の調査及び発表・・・地震

・阪神・淡路大震災と家族 面接調査による事例研究報告書

- (1) 震災発生から2ヶ月経過時の罹災体験、個別面接法によるインタビュー、31例
- (2) 家族社会学、家族危機論、家族ストレス論、ABC-Xモデル、A：家族にとってストレス源となる出来事、B：危機対応資源、C：出来事に対する意味づけ、X：家族における危機、C要因にアプローチすることを目的にしている
- (3) 家族のライフステージの段階によってその意味づけは異なり、対応も異なる
- (4) 介護を必要とするものがあるとその意味づけは異なり、対応も異なる
- (5) 家族の所属する文化的背景によってその意味づけは異なり、対応も異なる
- (6) 被災体験、被災状況、地震直後の状況、地震直後の対応、今までの状況、被災生活時の対応、今後の展望
- (7) 決して一人にならないこと、情報が得られない、不安を取り除けない、ストレスの発散が出来ない
- (8) 避難所生活は長期化することで、様々な葛藤が内部で生じてくる

事例の知見と規格要求項目との関連イメージ図

5.1プログラムの確立

5.2適用範囲定義

5.3リーダーシップ

5.4方針構築

5.5方針見直

5.6組織体制

6.1計画

6.2法的要求事項

6.3リスク評価とBIA

6.4脅威の特定

6.5リスク評価

6.6影響度評価（BIA）

6.7IMP、OCP

7.1責任と権限

7.2IPOCM定着

7.3能力、研修

7.4コミュニケーション

7.5運用管理体制

7.6財務と運用管理

8.1システム評価

8.2測定、監視

8.3テスト、訓練

8.4是正、予防

8.5維持

8.6内部監査

9 マネジメントレビュー

6.7・ペンライトは安全かつ効果的だった。

6.7・生産設備の転倒防止対策は有効。

6.7・配管は遊びがある方がよい。

6.7・金型は5mmの落下防止板で無事。

6.7・什器、壁固定や上部連結など転倒防止策が効果あり。

6.2～6.6・被災建屋の一次判定と応急処置に時間がかかった。

7.4・客先の信頼確保のため復旧状況報告を送付した。

6.2、6.4・復興プランには長期的展望に立って、地震だけではなく将来他の災害リスクも軽減する対策を、スタート時から含める。

6.6・大量の瓦礫（がれき）の発生。その除去が終わるまで再建に着手できない

6.2・食品衛生法、大規模小売店舗法の緩和

6.2・再建に関する法的制限

6.6・水損

6.6・冷却水不足

6.5・送電回復に伴う火災

6.2・ボランティア休暇

6.7・避難時には出来るだけ単独で行動しない

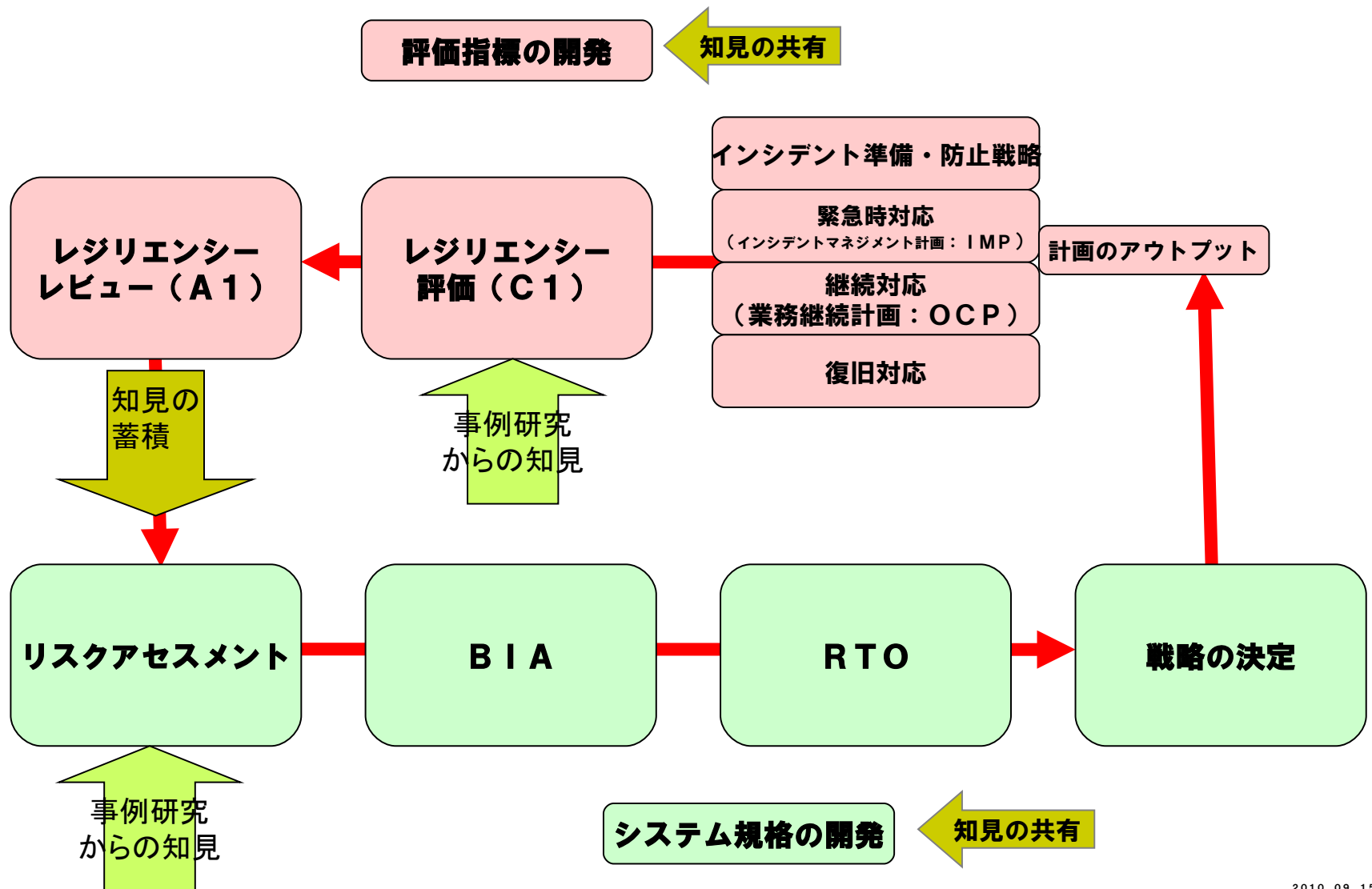
7.4・雇用情報ネットワークの実施

6.4～6.6・燃料調達

6.7・作業者のための水・食事・トイレ・宿泊場所の確保と健康管理は、安全かつ迅速に応急送電を実施するための最重要課題だった。

6.2・オフィス・工場・機械・設備・土地の貸与情報提供

知見の蓄積とレジリエンシー



まとめ

- ・組織の目的はレジリエンスの継続的改善
- ・規格の限界も知っておく、規格とレジリエンスの調和を考慮する
- ・いくつものインシデント事例からの教訓を整理しておく、知見をいつでも応用できる状態にしておく
⇒ 選択技の多様性がレジリエンスを向上させる
- ・その知見を規格にフィードバック、関連組織と共有

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

特定非営利活動法人
事業継続推進機構
国内外規格・認証制度研究会

A Specified Non-Profit Japanese Corporation
Business Continuity Advancement Organization (BCAO)